

事業計画書

第1期（創業期）

2022年10月4日

一般社団法人みかん箱

事業使命（ミッション）

ほっとする習い事で、「ここなら通いたい」という子どもを増やすこと。

事業目的

- 就学している主に未成年者が安心して過ごせる居場所となる施設を運営する
- 挫折や失敗を繰り返せる機会、偶発的な体験や学習ができる機会を提供する
- ナナメの関係、インフォーマルな関係で、他者と交流を図る機会を提供する
- 自己肯定感、人や社会と関わる力など、将来の自立に向けた力を育む

役員紹介

代表理事 佐々木 悟

医療法人道南勤労者医療協会 理事長

労災医療の専門家として地域医療に従事する傍ら、若者の起業支援や後進の教育指導に力を入れている。みかん箱では子ども・地域・安心をテーマに事業に取り組む。非常勤。

理事 秋山 慎一郎

秋山電気設備 代表

社会福祉施設における電気工事の実績多数。学校のPTA会長の経験から、子どもたちが抱える課題の解決に心を砕いてきた。みかん箱では安全・安心の施設作りに取り組む。非常勤。

理事 曾我 直人

株式会社ヒトココチ 代表取締役

学童クラブひのてんを含め、市内3か所の放課後児童クラブを運営。子どもたちが本当に面白いと感じるできごとを探求してきた。みかん箱では教材・プログラム開発に取り組む。常勤。

過去の事業経験

事業に関する資格や知的財産権等

特になし

取扱商品・サービス

(取扱商品・サービスの内容)

- 「カルチャーセンター臥牛館」(函館市末広町9-9)における、学びのサポート塾「みかん箱」の運営
- 少人数制で、楽しく子どもの学ぶ力を育む
- 事業の出発点は大人による学校の授業理解の手助け
- 子どもに、本来の勉強の楽しさを味わってもらいたい! という方におすすめ

(セールスポイント)

- ①少人数制、②授業理解、③楽しさ実感、④比較からの解放、⑤じっくり考える力
- 元教諭、海外留学経験者、音楽実演家など、ユニークなスタッフが授業を行う
- 地域資源(函館山、緑の島)や人材(大学教員等)を活かした体験・偶発的な学びを実現

(販売ターゲット・販売戦略)

- 函館市立青柳・弥生・あさひ小学校の児童
- 学童クラブ「ひのてん」に通所する児童
- ユニークな学習塾を求めている保護者
- 授業についていけないなど、課題を抱える児童生徒の保護者
- 経済状況に課題を抱える児童生徒およびその保護者
- 対象は小学生から中学生まで
- インターネットおよび口コミ、チラシによる募集

(競合・市場など法人を取り巻く状況)

- 進学塾とは異なり、子どもの居場所となる時間と空間(機能)を提供する
- アフタースクール(小学校における放課後の学習支援)とは異なり、教科書以外の題材も扱い、学ぶことの楽しさを実感してもらう
- 図書館、公共施設の学習スペースとは異なり、落ち着いた学習環境で、その児童にあわせた学習支援(必要に応じて生活に関するアドバイス)を行う
- 既存の施設や事業とは異なるポジショニングにより、新しい市場を生み出す

取引先・取引関係等

(販売先)

- 個人
 - シェア: 100%
 - 掛取引の割合: 0%
 - 回収・支払の条件: 当月の会費を当月末まで

(仕入先)

(外注先)

- 特になし

従業員

- 常勤役員の人数：1人
- 従業員数（3か月以上継続雇用者※）：4人（うちパート従業員3人）
※創業に際して、3か月以上継続雇用を予定している従業員数
- 人件費の支払：末日締め翌10日支払

事業内容

●組織基盤の強化

- 電話やインターネットなど、基本的なインフラを整備する
- バックオフィス業務についてはクラウド技術を導入し、組織運営の効率化を図る
- 物件所有者と交渉し、みかん箱に関する賃料を無料にしてもらい、負担を軽減する
- クラウドファンディング、寄付会員・みかん箱基金・広告協賛の募集その他の資金調達を行う

●学びのサポート塾「みかん箱」

- 株式会社ヒトココチから、既存の連携先を含めてそのノウハウを引き継ぐ
- 引き継ぐことについて、現会員の理解を得る
- 2023年4月1日から、みかん箱の運営を行う
- みかん箱通信を発行して、事業の周知を図る

●日本財団「子ども第三の居場所」事業申請

- 2023年度日本財団「子ども第三の居場所」事業に申請する
- 開設・運営事業を1年目とし、開設ではカルチャーセンター臥牛館の改修、運営ではみかん箱の運営を行う
- 申請については、函館市の「自治体協力届出（様式B）」および「三者協定書」が必要なため、函館市（所管：子ども未来部次世代育成課）と協議を行う
- 申請締切は10月31日
- 採否の通知は2023年に入ってから
- 事業着手は2023年4月1日以降

開設	1F, 3F, 4Fおよび外構工事		
運営	2F学習支援室	全室利用（創業期）	全室利用（成長期）
	2023年度	2024年度	2025年度

借入状況

借入先名	使いみち	借入残高	年間返済額
個人	事業（運転資金）	200千円	0円

必要な資金とその調達方法

必要な資金		見積先	金額	調達の方法	金額
設備資金	店舗、車両など（内訳） ・建物の改修 ・外構の改修 ・通信設備工事 ・備品の購入 ・車両の購入		46,000千円	自己資金	0円
				友人知人等からの借入	200千円
				金融機関からの借入	0円
				基金の募集	1,000千円
				その他（内訳）	46,000千円
運転資金	商品仕入、経費支払資金など（内訳） ・人件費 ・消耗品費		3,834千円	・日本財団「子ども第三の居場所」開設事業助成金※ ・同運営事業助成金	3,754千円
合計			49,834千円	合計	50,954千円

※開設事業助成金の受領は工事完了後（翌期の見込み）のため、当期の収支予算書にはその額を計上していない（設備資金も同様）

事業の見通し（月平均）

	創業当初	軌道に乗った後 （2025年9月頃）	積算根拠等	
収益①	708千円	730千円	2026年4月からの年間収益 ・会費等収入4,320千円（会員数60人） ・寄付金収入1,500千円 ・補助金等3,000千円	
事業原価②	0円	0円		
経費	人件費	426千円		560千円
	家賃	0円		0円
	支払利息	0円		0円
	その他	213千円		150千円
合計③	639千円	710千円		
正味財産 ①-②-③	69千円	30千円		